

千七十一W-71



現行法  
提要



C2  
5  
246

現行法令提要總目次

第一類 土地、河川、森林、鑛業

土地.....一

河川.....三

森林.....一五〇

鑛業.....二〇六

第二類 農商工 附貨幣、度量衡

農會.....一

耕地整理.....二六

肥料取締.....三

害蟲豫防.....三

總目次

蠶病豫防	一七
生絲檢查	二七
花筵檢查	一〇三
輸出羽二重取締	一二八
產業組合	一三二
重要物產同業組合	一三五
茶業組合	一六七
產牛馬組合	一七九
畜產	一八二
漁業	二〇五
獸獵	二九五
狩獵	三〇〇
商業會議所	三二七

取引所	三三七
保險	三八八
銀行	四〇四
信託	五三七
工場抵當	五八四
特許意匠商標	六〇三
實用新案	七三二
貨幣	七六三
度量衡	七九五

第三類 運輸、通信

鐵道	一
船舶	三三

總目次

船員.....一九三

水先.....二三四

郵便.....二四四

郵便貯金.....三四

郵便爲替.....三七二

電信.....四〇〇

**第四類 警察 附新聞、出版、著作權**

行政警察.....二二

治安警察.....二六

營業其他ノ取締.....二九

消防組.....六五

感化.....八九

精神病者監護.....九五

行旅病死入取扱.....一〇九

遺失物.....一一八

水難救護.....一二五

移民保護.....一四五

新聞.....一六八

出版.....一八五

著作權.....一九七

**第五類 衛生**

傳染病豫防.....二

種痘.....四一

賣藥.....四四

**總目次**

飲食物其他ノ物品取締	.....	五〇
未成年者喫煙禁止	.....	八〇
墓地及埋葬取締	.....	八二
水道	.....	九〇
下水道	.....	九三
汚物掃除	.....	九七
獸疫豫防	.....	一〇六
<b>第六類 租稅 附政府專賣、國稅徵收</b>		
地租	.....	一一
所得稅	.....	一九
相續稅	.....	四四
營業稅	.....	六七

酒造稅	.....	九四
醬油稅	.....	一〇三
砂糖消費稅	.....	一六一
賣藥稅	.....	一七七
骨牌稅	.....	一八七
登錄稅	.....	一九九
印紙稅	.....	二三五
沖繩縣酒類出港稅	.....	二三五
噸稅	.....	二三五
關稅	.....	二七〇
非常特別稅	.....	二九〇
收入印紙	.....	三三六
政府專賣	.....	三三六
總目次	.....	七

國稅徵收.....三七

八

第七類 教育 附曆時

勅語.....一

學校通則.....四

通常教育.....二六

師範教育.....三六

實業教育.....三九

專門學校.....八一

私立學校.....九三

教員.....一〇一

學位.....一一一

曆時.....一二三

第八類 徵兵 附陸海軍刑法治罪法

徵兵.....一

陸軍一年志願兵.....七四

陸軍六週間現役兵.....九六

國民軍.....一〇五

身體檢查.....一一

海軍志願兵.....二九

陸海軍刑法.....一五〇

陸海軍治罪法.....二二七

總目次

九

第一類 土地、河川、森林、鑛業

○土地

地所名稱區別……………	一
官有財産管理規則……………	五
官有地取扱規則……………	一〇
官有地特別處分規則……………	一三
北海道國有未開地處分法……………	一五
土地收用法……………	二
土地收用法施行令……………	四
土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件……………	四
土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件……………	五
土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件……………	六〇

目次

土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件……………六一

○河川

河川法……………三

河川法施行規程……………八五

河川ニ關スル行政監督ノ件……………八九

河川臺帳ニ關スル件……………九四

河川法第五條ニ依レル命令ノ件……………九七

河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件……………九六

河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處

分ニ關スル件……………一〇〇

河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件……………一〇三

河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件……………一〇五

河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件……………一〇九

砂防法……………一一〇

砂防法施行規程……………一一五

砂防ニ關スル行政監督ノ件……………一二八

砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件……………一三一

水利組合條例……………一三三

○森林

森林法……………一五〇

森林法施行細則……………一五三

國有林野法……………一六八

國有林野法施行規則……………一七五

國有林野部分林規則……………一九一

國有林野委託規則……………一九七

國有土地森林原野下戻法……………一九九

目次



國有土地森林原野下戻申請手續……………1011

○鑛業

鑛業法……………1006

鑛業法施行細則……………1005

鑛業登録令……………1004

鑛業登録令施行細則……………1005

鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料……………1001

鑛業警察規則……………1007

鑛業抵當法……………1010

鑛業抵當登記取扱手續……………1003

砂鑛採取法……………1005

砂鑛採取法施行細則……………1001

第一類 土地、河川、森林、鑛業

●土地

●地所名稱區別

(明治七年十一月七日 布告第百二十號)

明治六年(三月)第百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候際此旨布告候事

官有地

第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第

三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ(地方稅)ト改ム)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ

地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告ヲ以テ改

正十二年第三十四號布告ヲ以テ(區入費ヲ賦スル)ヲ(地方稅ヲ賦

第一類 地所名稱區別

第一類

土地、河川

森林、鑛業

●地所名稱區別

明治七年十二月七日  
布告第百二十號

明治六年(三月)第百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第

三十四號布告ヲ以テ(區入費)ヲ(地方稅)ト改ム)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ

地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告ヲ以テ改

正十二年第三十四號布告ヲ以テ(區入費ヲ賦スル)ヲ(地方稅ヲ賦

第一類 地所名稱區別

セサル)ト改ム)

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一皇族賜邸

一官用地 官院省使寮司府藩縣(本支)廳裁判所警視廳陸海軍(本分)營其

他政府ノ許可ヲ得タル所有ノ地ヲ云

第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘ

シ(十二年第三十四號布告ヲ以テ(借地料)ノ下(及ヒ)以下十字  
ヲ(ヲ納メシムヘシ)ト改メ本文(區入費)ヲ(地方稅)ト改ム)

一山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニ  
アラサルモノ

一鐵道線路敷地

一電信架線柱敷地

一燈明臺敷地

一各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一行刑場

第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(同上(區入  
費ヲ賦スル)ヲ(地方稅ヲ賦セサル)ニ改ム)

一寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(同上(區入費)ヲ  
(地方稅)ト改ム)

一人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰シ地開墾等ノ如キ大ニ地

第一類 地所名稱區別

三

形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フテ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院郷倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云（元第二種ノ處九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス）

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フテ法トス

第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス（八年第百十四號布告ヲ以テ第三種ヲ改正シ九年第八十八號布告ヲ以テ第二種トナス十二年第三十四號布告ヲ以テ（區入費）ヲ（地方稅）ト改ム）

一 官有ニアラサル郷村社地及ヒ墳墓地等ヲ云

一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地（八年第百五十四號布告ヲ以テ本項追加）

一 公衆ノ用ニ供スル道路（十三年第四十三號布告ヲ以テ本項追加）

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

官有財產管理規則

（明治二十三年十一月二十四日勅令第二百七十五號）

朕官有財產管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財產管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財產ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス

第二條 官有財產ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス

第三條 官有財產ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ

第四條 官有財產賣拂代金ハ其ノ財產引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財產ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財產ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル

第一類 官有財產管理規則

所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内

第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内

第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内

第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ

得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第一類 官有財産管理規則

七

第十三條 府縣都市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川竝木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣都市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ満期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物造物ハ此ノ限ニ在ラス(三十四年勅令第五十六號ヲ以テ但書追加)

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲グル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高チ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘ

第一類 官有財産管理規則

シ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ  
第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

### ●官有地取扱規則

(明治二十三年十一月二十四日)  
勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 官有地取扱規則

- 第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大臣之ヲ處理ス
- 第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並  
訴訟ハ内務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ内務大臣ニ請求スヘシ
- 第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内務大臣ニ還付スヘシ
- 第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ内務大臣其手  
續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ内務  
大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ  
但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其  
代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレ  
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ  
使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠  
償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自  
費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラ

#### 第一類 官有地取扱規則

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規

則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

●官有地特別處分規則

(明治二十三年七月二十一日勅令第三百三十五號)

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣都市町村及公共組合又ハ其ノ他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タズ其評定價格二百圓以

第一類 官有地特別處分規則



内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルガ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徴收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

### ●北海道國有未開地處分法

(明治三十年三月二十七日法律第二十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道國有未開地處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 北海道國有未開地處分法

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂、付與、交換及貸付ノ處分ハ此ノ法律ニ依ル第二條 前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競争ニ付セス

第三條 開墾牧畜若ハ植樹等ニ供セムトスル土地ハ無償ニテ貸付シ全部成功ノ後無償ニテ付與スヘシ

前項ノ貸付地面積ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第一項ノ貸付地ハ全部成功ニ至ラスト雖土地整理上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ其ノ成功地ノ全部若ハ

#### 第一類 北海道國有未開地處分法

一部ヲ付與スルコトヲ得

第四條 公用若ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ直ニ賣拂  
付與又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 市街地、市街豫定地其ノ他土地ノ狀況ニ由リ必要ト認ムル土地ハ競争  
ニ付シ直ニ賣拂フコトヲ得

第六條 社寺地又ハ墓地ニ供セムトスル土地其ノ他事業ノ目的ニ由リ必要ト認  
ムル土地ハ直ニ賣拂フコトヲ得

第七條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償貸付ヲナスコトヲ得

第八條 民有地下交換スルコトヲ得ヘキ土地ハ其ノ評定價格相均キモノニ限ル

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超セムルコトヲ得ス  
無償貸付 十箇年  
有償貸付 十五箇年

植樹又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ特ニ二十箇年以内ノ期間ヲ以テ貸付スルコトヲ

得

天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ由リ貸付期間内ニ成功スルコト能ハサルト  
キハ貸付期間ノ半期間マテ延期スルコトヲ得

第十條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ豫定ノ事業成功ノ程度ニ從ヒ隨時其ノ  
成否ヲ點檢シ豫定ノ如ク成功セサルトキハ未成功地ノ全部ヲ返還セシムルコト

前項ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地  
ノ一部若ハ全部ヲ無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供セムトスルト  
キハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ由リ評定ノ  
上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價格ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直

接ノ費用ハ之ヲ辨償スルモノトス但シ第三條ニ依リ貸付シタル土地ニ關シテ  
ハ其ノ評定價格土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多額ナルトキハ其ノ價

第一類 北海道國有未開地處分法

格ニ由リテ辨償スルモノトス

前項ニ掲クル總テノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第十二條 左ノ場合ニ於テ天災其ノ他避ケヘカラサル事故ニ由ルモノノ外賣拂、付與及貸付處分ヲ取消スモノトス但シ賣拂ニ係ルモノハ其ノ既納ノ代價ヲ還付スヘシ

一 第三條ニ依リ貸付シタル土地ニシテ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ

二 第四條及第六條ニ依リ賣拂。付與又ハ有償貸付ヲナシタル土地ニシテ三箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

三 第四條及第七條ニ依リ無償貸付ヲナシタル土地ニシテ二箇年以内ニ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十三條 左ノ場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

一 第三條ニ依レル貸付中ノ土地ヲ自己ノ便宜ニヨリ貸付期限内ニ返還シ又

ハ第十條ニ依リ返還セシメタルトキ

二 第四條及第七條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ヲ豫定ノ目的ニ使用セスシテ返還シ又ハ第十二條ノ處分ヲナシタルトキ

第十四條 第十條ニ依リ貸付地ヲ返還セシメ若ハ自己ノ便宜ニヨリ貸付中ノ土地ヲ返還シタル場合又ハ第十二條ニ依リ賣拂、付與及貸付處分ノ取消ヲナシタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル建設物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ行政廳ノ定メタル期間内ニ於テ之ヲ除去スヘシ若其ノ期間内ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 左ノ貸付地ニ限り行政廳ノ許可ヲ得テ其ノ貸付地ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賣買讓與スルコトヲ得

一 第四條及第七條ニ依レル有償貸付地

二 行政廳ニ於テ特ニ指定シタル區域内ニ於ケル貸付地

三 命令ヲ以テ定メタル事項ニ該當スル貸付地

第一類 北海道國有未開地處分法

第十六條 第三條ニ依リ貸付シタル土地ハ貸付期間満了後一箇年以内ニ其ノ土地ノ付與ヲ請求スヘシ一箇年ヲ經過シテ請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 第三條ニ依リ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ土地ノ全部ヲ成功スルニ非サレバ他ノ土地ノ無償貸付ヲ受クルヲ得ス但シ相當ノ資力アリテ成功スルヲ得ル者ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 此ノ法律ニ依リ賣拂・付與又ハ交換シタル土地ハ其ノ民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレバ地租及地方稅ヲ課セス

此ノ法律ニ依リ土地ノ付與ヲ受ケタル者ニ限り六箇月以内ニ其ノ登記ヲ請フトキ及土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス(三十二年法律第一號以テ本項追加)

第十九條 第十條及第十二條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

第二十條 此ノ法律ハ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ニ依リ貸付中ノ土地ニ對シテ之ヲ適用ス但シ此ノ法律施行前牧畜ノ爲ニ貸付シタル土地ニ限り五箇年以内貸付期間ヲ延期スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則及其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十三條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●土地收用法

(明治三十三年三月六日法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章 總則

第一類 土地收用法 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
  - 二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業
  - 三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業
  - 四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜地、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業
  - 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ
- 國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條 ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一類 土地收用法 總則

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ關スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前三其ノ日時及場

所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受ケルシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ

第一類 土地收用法 事業ノ準備

地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ  
郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ  
軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

第一類 土地收用法

事業ノ認定

收用ノ手續

二十七

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ガ必要ト認ムルト

キハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人ガ調書ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ

起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長ガ起業者ナル

トキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限

ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人ガ調書ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調書ノ記載事項ニ

對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關ス

ル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト不能ナルトキハ起業者ハ收用審

査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左

ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ

事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要ス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積

及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件ガ分割ヲ來スヘキ場

合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

第一類 土地收用法 收用ノ手續



收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通

知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘ

シ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長

官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長

官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事

情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ

裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命  
スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決

ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務

大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同

シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長

官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地

方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要

ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲

第一類 土地收用法 收用ノ手續

土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後二箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

- 一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
- 二 損失ノ補償
- 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事

第一類 土地收用法

收用審査會

ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得ザルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ牴觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍

ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル

第一類 土地收用法 收用審査會

所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償ス

ヘシ 使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償ス

ヘシ 第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他

殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用ニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第一類 土地收用法 損失ノ補償

第五十五條 土地ノ使用方三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ

準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二 起業者ハ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ

第一類 土地收用法 收用ノ效果

又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サザルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害

賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限

ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者

又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第一類 土地收用法 收用ノ效果

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少ク下モ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモ

ノテ除クノ外府縣ノ負擔トス 第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一類 土地收用法 費用ノ負擔

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得  
前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルト

キハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一類 土地收用法 監督、強制及罰則 四十五



第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セズ

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之第一類 土地收用法 訴願及訴訟

ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司  
之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏  
員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準  
スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長  
之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏  
員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員  
之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別  
段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四

號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

### ●土地收用法施行令

(明治三十三年三月三十日)  
勅令第九十九號

朕土地收用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 土地收用法施行令

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權  
ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲ス  
ル地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携  
帶スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタ  
ル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

#### 第一類 土地收用法施行令

- 一 御陵墓地及御料地
- 二 國有地
- 三 現ニ公用ニ供スル土地
- 四 社寺境内地
- 五 名所、舊蹟及古墳墓
- 第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十  
九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出  
ツヘシ
- 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ
- 第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ  
捺印スヘシ
- 第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ

縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者

ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

- 一 工事ノ種類
  - 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
  - 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
- 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ  
收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ  
土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シ  
タルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ  
之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第一類 土地收用法施行令

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

- 一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下
  - 二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下
  - 三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下
- 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ク時間又ハ特別ノ技能者ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官力決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附則

第一類 土地收用法施行令

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十日)  
勅令 第百號

朕土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル

期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之

ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了

ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日

ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算

ス 週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又

ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ

期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ

滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類

ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ

口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セザル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵

便ニ依ルコトヲ得

第一類 土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令 五十五  
ノ件

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ  
第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一類 土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令 五十七  
ノ件

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ

前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規

定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關

スル件 (明治三十三年三月三十日勅令第百一號)

朕土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關  
第一類 土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審 五十九  
査會ニ關スル件

係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ  
合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非  
サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件

(明治三十三年三月三十日 勅令第百二十二號)

朕土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 傭人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅

費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ

準用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第八十五條第二項ニ基ツキテ發スル

命令ノ件 (明治三十三年三月三十日 勅令第百三十三號)

第一類 土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件 六十一



朕土地收用法第八十五號第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●河川

●河川法

(明治二十九年四月七日) 法律第七十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第一類 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ 六十三  
發スル命令ノ件 河川法

第五章 監督及強制手續

第六章 訴願及訴訟

第七章 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係

アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ

其河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ

特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又

ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ

附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外

總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ

河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スル

コトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣

ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ

其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモ

ノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ

第一類 河川法

一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼子テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼子テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ依リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲオモコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス

第一類 河川法

但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員、若ハ深淺又ハ敷地ノ現状等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ  
二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用者ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタルノ吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル

者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一類 河川法

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限りニ在ラズ

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用

負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理  
者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ  
命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ  
補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ  
著シク利益ヲ受ケルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ  
主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其  
ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコト  
ヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタ  
ル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其  
ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自  
ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者  
ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公  
共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ  
其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若  
ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係  
ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シ  
テ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地  
方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地

ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地

ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲

必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ

府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ

地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ

價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、

占用若ハ工作物ノ管理ニ依リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公

共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲メ工作物ヲ施設其ノ他河川ノ使用若

ハ占用ヲ許可スルコトヲ得其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用

料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀

ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコト

ヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過ス

ルコトヲ得

通航料ヲ徵收ヲ停止スルキ場合ニ於テ補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル

規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地以公用ヲ廢止スルコトヲ得其ノ地方行政廳ハ命令ヲ定ムル所ニ



從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルト  
キハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ  
命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ  
河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其  
ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ  
土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之  
ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ  
其收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得  
土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコ  
トヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其  
ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必  
要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル  
所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土  
地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノ  
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シ

第一類 河川法

タル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ壘帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ク得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料

ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スルべき費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトスル此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スルべき費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲シ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第一類 河川法

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得  
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテ注亦本條及前條ヲ準用ス  
第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ヲ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級

行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタルトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十三條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
法律ハ命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタルトシ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算ス

第一類 河川法

ルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム  
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ壅帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

●河川法施行規程

(明治二十九年六月二日 勅令第二百三十六號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモ

第一類 河川法施行規程

ノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ（三十二年勅令第二百八十六號  
ヲ以テ本條中追加）

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定  
ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關ス  
ル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシム  
ル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年  
度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナ  
ストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運  
搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ

物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ  
立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現  
在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其  
ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲  
其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執  
行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラ  
ザルモノハ從前ノ所有者若ハ其相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサ  
ル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサ  
第一類 河川法施行規程

ルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受ケヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス  
河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料シ徵收ハ従前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得  
府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

●河川ニ關スル行政監督ノ件

(明治二十九年六月二日 勅令第二百三十五號)

第一類 河川ニ關スル行政監督ノ件

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ內務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セス下規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

一 河川ノ支川、派川及河川ノ附屬物ノ認定(三十二年勅令第二百八十七號第十ヲ以テ本號中追加)

二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算

三 河川法第十七條、第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可

四 內務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分

五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法

六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其他ノ障害物ノ除却

第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分

二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スベキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得

第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要

第一類 河川ニ關スル行政監督ノ件

ス

一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ニ關係アルコト

二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲオストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○内務省令 明治三十八年三月三十日 第四號

明治二十九年勅令第二百三十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一 河川ノ附屬物ノ新築、改築又ハ除却工事ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ボ

ササルモノノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算

二 堤防ノ嵩置又ハ腹付ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算但シ對岸他府縣

ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ施行スル嵩置又ハ堤外ノ

腹付ハ此ノ限ニ在ラス

三 河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ボササル

モノ以テ新築、改築又ハ除却ヲ許可但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流

他府縣ニ連接スル場合ニ於テハ季節ヲ限リ一時許可スルモノノ外此ノ限ニ

在ラス

第一類 河川ニ關スル行政監督ノ件



- 四 河川ノ敷地又ハ流水ノ占用ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ホササルモノ及一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續占用ノ許可
- 五 河川法第三十九條ニ依ル障害物ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ
- 第二條 第二條第一號乃至第四號ノ場合ハ府縣知事ニ於テ處分ノ後直ニ内務大臣ニ報告スヘシ但シ季節ヲ限リ一時許可セシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 明治三十二年内務省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

●河川臺帳ニ關スル件

(明治二十九年十月十四日) 勅令第三百三十一號

- 朕河川臺帳ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス
- 第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得
- 第三條 河川ノ敷地及堤外地ノ區域

二 河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置

置形狀

三 河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀

第三條 府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見

ヲ徴シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縱

覽ニ供スルコトヲ得但シ其ノ期間中ニ於テ其ノ河川ノ敷地及堤外地ノ區域

前項ノ場合ニ於テ利害關係者ハ縱覽期限經過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ

意見ヲ申立ルコトヲ得但シ地元市町村ノ多數アル場合ニ於テハ府縣知事ハ縱

覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ隣接スル市町村ニ限リ併合縱覽セシムルコト

ヲ得(三十一年勅令第六十七號ヲ以テ但書追加)

第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ内務大臣ニ提

出スルコトヲ得

第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經

第一類 河川臺帳ニ關スル件

第六條 内務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ

第七條 内務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覽ニ供スルノ方法ヲ設メ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其ノ更正ヲ爲シタルトキ亦同シ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ改正)

第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第十條 市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ

市參事會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其旨ヲ公告シ公衆ノ請求アルトキハ之ヲ縦覽ニ供スヘシ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ改正)

第十一條 土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ

第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

●河川法第五條ニ依レル命令ノ件 (明治三十二年十月十三日勅令第四百四號)

朕河川法第五條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條 前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條(敷地第一類)河川法第五條ニ依レル命令ノ件

ヲ除ク) 第四條第二項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス  
府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

●河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件

(明治三十二年四月五日)  
勅令第百二十二號

朕河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ補助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト

二 工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三分ノ二以内トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニアラス

第三條 此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第四條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者

第一類 河川法第三十二條第二項ノ費用補助 九十九  
ニ關スル件

不明ナルトキハ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得

第五條 府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

●河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件 (明治三十二年九月二十八日勅令第三百九十一號)

朕河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 日本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ  
第二條 廢川敷地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ  
第三條 廢川敷地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條 府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生ジタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條 府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條 河流ノ變更ニ因リ生ジタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サシタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條 廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ  
第一類 河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用 百一  
ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件

其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ

河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條 府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條 廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府

縣ニ歸屬ス

第十四條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經テ

第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

●河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件

(明治三十三年七月十二日) 勅令第三百號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ

第一類 河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件 百三

得

百四

- 第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得
- 第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却
  - 二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更
  - 三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採
- 第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ
- 前項制限ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事之ヲ定ム
- 第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

- 第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ
- 第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ、第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ
- 第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 一 第一條ニ依ル處分
  - 二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可
- 第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

●河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

第一類 河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

百五

(明治三十年十月十八日)  
勅令第三百七十七號

朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 工事ノ營業其他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第一類 河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件 百七

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號

第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リ

テ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ

内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキ

二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行

政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

●河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件

(明治三十三年四月十六日  
勅令第四百四十八號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮

第一類 河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件 百九



二處ス。

百十

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス。

- 一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者
- 二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者
- 三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

### ●砂防法

(明治三十年三月二十七日)  
法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
砂防法

#### 第一章 總則

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第四章 警察、監督及強制手續

第五章 訴願及訴訟

第六章 附則

### 砂防法

#### 第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

#### 第一類 砂防法

百十一

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナスシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一類 砂防法

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔 土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラズ

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防

工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用

第一類 砂防法

ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ其ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第一類 砂防法

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變

更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス  
地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル

第一類 砂防法

職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シ

タル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第一類 砂防法

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

●砂防法施行規程

(明治三十年十月二十三日 勅令第三百八十二號)

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布モシム

砂防法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣府事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ第一類 砂防法施行規程



維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クとも五日前に其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クとも五日前に又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クとも十五日前に其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クとも七日前に之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ従前ノ規程ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第一類 砂防法施行規程

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

●砂防ニ關スル行政監督ノ件

(明治三十一年一月三十一日) 勅令第十五號

朕砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス但シ利害關係小ニシテ內務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

- 一 砂防法第三條ニ依ル進用
- 二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲
- 三 砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分
- 四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算
- 五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法
- 六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
- 七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

- 一 砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
  - 二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノホスヘキ障害物ノ除却
  - 三 砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分
- 第一類 砂防ニ關スル行政監督ノ件 百二十九

第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ

寄付チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付チナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄付チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付チナシ得ヘキコト

第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ

補助チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受ケヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助チナシ得ヘキコト

○内務省令(明治三十二年四月二十九日)明治三十一年勅令第十五號第二條但

書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 左ニ掲ケタル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セス

一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ位置又ハ工種ノ變更ニシテ當初ノ計畫ト同一ノ效果ヲ收メ得ヘキモノ

二 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ伸縮増減ニシテ地質ノ硬軟又ハ地形ノ變遷ニ起因シ其ノ位置及工種ニ變更ナキモノ

第二條 前條第一號ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

第三條 此ノ省令ニ依リ府縣知事ニ於テ處分シタルモノハ直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ

●砂防法第十二條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件

(明治三十二年八月十五日)勅令第三百七十四號

第一類 砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件 百三十一

朕砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スベシ

第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

水利組合條例

(明治二十三年六月二十日法律第四十六號)

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一 普通水利組合

二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモ

第一類 水利組合條例

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノノ爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半數ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府第一類 水利組合條例

縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テ

ハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會議ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期  
第一類 水利組合條例

及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス
- 二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事
- 三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事
- 四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、並質入、書入ヲ爲ス事
- 五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監督スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ效力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル  
組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ

第一類 水利組合條例

招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遅クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ  
第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ  
ナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半数ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ  
可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケズ組合規約ノ規定ニ依リ  
組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管  
理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市  
町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會  
計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシ

テ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ  
徵收ヲ爲スヘシ

第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ  
要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又  
ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事
- 二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ  
越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ  
執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ  
請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但  
權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ

第一類 水利組合條例



府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理  
者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル  
者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ  
議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政  
裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ  
議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サ  
レハ組合ノ爲契約ヲ結ビ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコト  
ヲ得ス

第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會  
之ヲ選任シ僱員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

#### 第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦  
課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ  
組合員ニ對シテハ土地ニ限り之ヲ賦課スヘシ

第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スル  
コトヲ得

第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其  
積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫  
防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ

#### 第一類 水利組合條例

得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設ケルコトヲ得

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ  
年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ每會計年度ノ歳入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條 歳入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第二次ニ郡長第三次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノハ外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組

第一類 水利組合條例

合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得  
前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徴收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ  
前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ內務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ竝實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徴スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ  
第一類 水利組合條例  
百四十七

府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ増加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シ代テ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ  
水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服従スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百二十九條ヲ適用ス

第七章 附則

第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ第一類 水利組合條例

職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

●森林

●森林法

(明治三十年四月六日  
法律第四十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

第二章 營林ノ監督

第三條 公有林及社寺林ニシテ其ノ經濟ノ保續ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ主務大臣ニ於テ營林ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第一類 森林法

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者ノルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收シ又ハ其ノ造林ニ係ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其ノ箇所ヲ指定シ森林ノ開墾ヲ禁止スルコトヲ得

第三章 保安林

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂墾崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 積雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所

六 魚附ニ必要ナル箇所

七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所

八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所

九 社寺ノ名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第九條 保安林ハ編入ノ原因消滅シ又ハ公益上特別ノ事由生シタルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第十條 保安林ノ編入解除ハ府縣郡市町村其ノ他直接ノ利害ヲ有スル者ヨリ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ又ハ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

第十二條 保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會ニ十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林ノ所有者並大林区署土木監督署ニ

第一類 森林法

其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マデ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十二條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ府縣知事ヲ經テ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十五條 府縣知事ハ地方森林會ノ答申書ニ意見ヲ付シ關係書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ具申スヘシ

第十六條 保安林ノ編入解除ハ地方森林會ノ議決ヲ經テ主務大臣之ヲ決定ス

第十七條 保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有者ニ通達スヘシ

第十八條 保安林ノ編入解除ニ直接ノ利害ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ前條ノ告示若ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス  
第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其ノ森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其ノ使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ造林ヲ施行セス又ハ第二十二條ニ依リ指命シタル事項ヲ實

第一類 森林法

施セサル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第二十五條 政府ニ於テ保安林ヲ買上ケムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 保安林ニ編入セラレタル爲損害ヲ蒙リタル森林所有者ハ其ノ伐木

ヲ禁止セラレタル場合ニ於ケル直接ノ損害ニ限り補償ヲ求ムルコトヲ得但シ

御料林、國有林ニ對シテハ補償ヲ爲スノ限ニ在ラス

前項ノ損害ニシテ申請ニ係ルモノハ申請者之ヲ補償シ命令ニ係ルモノハ政府

之ヲ補償ス但シ申請者ノ補償ニ係ルモノハ政府ニ於テ其ノ三分ノ一以内ヲ補

助スルコトヲ得

損害ノ算定方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 第二十五條ノ買上價格又ハ前條ノ補償金額ニ付協議整ハサルトキ

ハ地方森林會チシテ評決セシムヘシ若之ニ服セサル者ハ評決ノ通知ヲ受ケタ

ル日ヨリ九十日以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第二十九條 官地私木ノ森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルモノハ借地料ヲ免

ス

第三十條 從來ノ禁伐林、風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安

林トシ其ノ森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四章 森林警察

第三十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産物ニ使用スル記號又ハ

印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘシ

警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察

官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコト

ヲ得ス

第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ

第一類 森林法



設備ヲ爲スヘシ

第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第三十六條 森林又ハ其ノ近傍ニ於テ火災又ハ虫害アルヲ發見シタル者及森林

ニ關スル罪ヲ犯シ若ハ犯サムトスル者アルヲ覺知シタル者ハ直ニ森林官吏、

警察官吏又ハ郡市町村吏員ニ申告スヘシ

第五章 罰則

第三十七條 森林ニ於テ其ノ主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上

贓額二倍以下ノ罰金又ハ十二日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其ノ主副産物ニ

シテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ

得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍

以下ノ罰金及二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコ

トヲ得ス

一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ

二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルト

キ

三 贓物ヲ燃料トシテ礦物ノ採取精製若ハ石灰、煉化石、瓦其ノ他ノ物品ノ

製造ニ使用シタルトキ

四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ

五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ

六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ

第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保

ヲ爲シタル者ハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁錮ニ

第一類 森林法

處ス但シ罰金ハ贓額以下三下ノヨリ得ズ其罰金一圓以上三圓以下ノ重懲役ニ  
第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シタル者ハ二圓以上五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ主產物ヲ燒燬シタ  
ル者ハ重懲役ニ處ス其ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重懲役  
ニ處ス

第四十二條 他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀壞シタル者ハ二圓以上三十  
圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二十條  
ヲ適用ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印影ヲ變更若ハ消除シタル者  
ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ二圓以上二百圓以

下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一口以  
上六月以下ノ重懲役ニ處ス

他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ制限ノ命令ニ違背シテ伐木  
ヲ爲シタル者ハ其ノ伐採シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上

五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

第一類 森林法

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第六章 雜則

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十三條 森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル樟腦、樟腦油、藕其ノ他樹木ノ脂液及木炭ハ贓物ト見做ス

第五十四條 此ノ法律ニ依リ徵收スヘキ費用ハ國稅意納處分法ニ依リ徵收スルコトヲ得

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其ノ造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其ノ造林シタル部分ニ限リ

翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

原野山嶽又ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノハ前項ノ例ニ依ル

第五十七條 北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス但シ保安林ノ編入解除ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

● 森林法施行細則 (明治三十年十二月十四日 農商務省令第十九號)

森林法施行細則左ノ通相定ム

森林法施行細則

第一條 府縣知事ニ於テ公有林、社寺林及私有林ニ付森林法第三條、第四條及

第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ處分ノ上農商務大臣ニ届出ヘシ (三十四年農商務省令第二號ヲ以テ全條改正)

第一類 森林法施行細則

府縣知事ニ於テ森林法第七條、第二十一條乃至第二十三條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキ及前項規定以外ノ森林ニ付第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣知事森林法第五條、第二十四條及第五十五條ニ依リ政府ニ於テ造林執行ノ必要アルモノト認メタルトキハ實地調査ノ上別記様式ニ依リ造林事業豫算書ヲ調製シテ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ費用ノ徴收若クハ部分林トナスニ付テノ意見ヲモ具申スヘシ

第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調書及圖面ヲ添付スヘシ

保安林編入調書ノ様式ハ府縣知事之ヲ定ム

第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除ヲ要スル理由ヲ記載スヘシ

但保安林幾部ノ解除ニ係ル場合ハ保安林ノ全部及解除スヘキ部分ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ面積ヲ記附スヘシ

第三條ノ二 保安林解除ノ申請アリタルトキ又ハ編入ノ原因消滅シタリト認メタル場合ニ於テ更ニ他ノ原因ニ依リ保安林編入ノ申請アルカ又ハ編入ノ必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ同時ニ解除及編入ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ(三十五年農商務省令第十八號ヲ以テ追加)

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若クハ保安林編入解除ニ就キ申請又ハ通知ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キニ府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ答申書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府

第一類 森林法施行細則

縣知事ニ通達シ府縣知事ハ十日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通達スヘシ但編入ニ付テハ保安林編入調書ノ中施業法要領ヲ通達書ニ添付スヘシ(三十四年農商務省令第二號及三十五年第十八號ヲ以テ條中改正)

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上ケルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ受ケ森林所有者ト協議シテ其買上價格ヲ定ムヘシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其評決シタル買上價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通達スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若クハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 森林法第三十一條ニ依ル届書ハ其記號ノ形狀並ニ印影ヲ添付シタル書

面ヲ作業地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林區署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲スノ許可ヲ得ントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若クハ警察署ニ申出ツヘシ但火入ヲ爲サントスル森林ノ全部又ハ一部カ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ願書ニ添付スヘシ(三十四年農商務省令第二號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前條ノ火入許可證ヲ現場ニ携帯スヘシ

第十三條 森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日前ニ火入箇所隣接地ノ所有者若クハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延燒ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警察官ハ其火入ヲ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若クハ相當ノ設備ヲ

第一類 森林法施行細則

爲サシムヘシ

(火入許可證略ス)

●國有林野法

(明治三十二年三月二十二日  
法律第八十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有林野法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ
- 第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得
- 組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必

要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨ

第一類 國有林野法

リ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
- 三 社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
- 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
- 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
- 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意

契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
  - 二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ
  - 三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ
  - 四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ
  - 五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ
- 第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徴收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第一類 國有林野法

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年
  - 二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年
  - 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年
- 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立

木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

- 一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ
- 二 府縣郡市町村及其他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使

用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ



設ケルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部合ニ均シキ者トス部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ在續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス  
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス  
第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開

會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●國有林野法施行規則

(明治三十二年八月三日)  
農商務省令第二十五號

國有林野法施行規則左ノ通定ス

國有林野法施行規則

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ内務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査

第一類 國有林野法施行規則

ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ添附スヘシ

第二章 境界査定

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少ナクモ其ノ期日ヨリ十五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ鄰接地所有者ニ通告スヘシ但シ鄰接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニアラス

第四條 鄰接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終リタルトキハ大林區署長又ハ林野整理支局長ハ直ニ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ

第六條 鄰接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第七條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

取證ヲ差出スヘシ郵便ヲ以テ通告書ノ送付ヲ爲ストキハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三章 緣故者

第七條 國有林野法第八條第四號ノ緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 部分林ニ在リテハ其ノ分收ノ權利ヲ有スル者
  - 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
  - 三 府縣設置以前重要ナル產物ノ採取ヲ爲シタル慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ採取ヲ爲シタル者(三十七年農商務省令第九號ヲ以テ本號中改正)
  - 四 府縣設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其ノ入會ヲ爲シタル市町村又ハ市町村内ノ一部
  - 五 城趾ニ在リテハ其ノ舊藩主
  - 六 神祠、佛堂、墓碑其ノ他ノ遺跡ノ存スル林野ニ在リテハ其ノ遺跡ニ緣故アル者
- 第一類 國有林野法施行規則

七 古記、社傳又ハ歴史ノ證スル所ニ依リ社寺ニ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ社寺

八 鑛業法第五十六條ニ掲グル目的ノ爲貸付シ又ハ使用セシメタル國有林野ニ在リテハ探掘權者(三十八年農商務省令第二十二號ヲ以テ追加)

第四章 賣拂豫約

第八條 國有林野法第九條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂豫約ヲ出願セントスル者ハ願書ニ事業方法書、收支豫算書及實測圖ヲ添附シテ之ヲ林野整理支局長ニ差出スハシ

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スハシ

第九條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 實測面積
- 二 開墾ノ方法及順序

三 開墾豫定圖

四 開墾著手ノ時期

五 毎年開墾スヘキ豫定面積

六 成功期限

第十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ノ面積ハ四百町步ヲ超ユルコトヲ得ス但シ林野ノ形狀又ハ開墾ノ計畫ニ依リ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニアラス

第十一條 成功期限ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第九條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ林野整理支局長ニ差出スヘシ

成功期限ノ延長ヲ許可シタルトキト雖通算シテ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 開墾者賣拂豫約ノ目的タル林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ請書ヲ差出スヘシ

第十四條 開墾者ハ林野ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ境界標ヲ建設スヘシ

第一類 國有林野法施行規則

第十五條 開墾者ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外賣拂豫約ノ當時其ノ林野ニ存スル產物ヲ處分シ又ハ使用スルコトヲ得ス

第十六條 開墾者ハ前年度ニ於ケル開墾ノ成績ヲ次年度ノ初日ヨリ一箇月以内ニ林野整理支局長ニ報告スヘシ

第十七條 林野整理支局長必要ト認ムルトキハ開墾事業ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十八條 開墾者ハ林野整理支局長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ林野ヲ他人ニ貸付シ又ハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第十九條 相續ニ因リテ開墾者ノ權利ヲ取得シタル者ハ戶籍吏ノ證明書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ林野整理支局長ニ届出ツヘシ

第二十條 賣拂豫約ノ目的タル林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ開墾者ハ直接ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 開墾者本則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成功ノ見込ナシト認ムルトキハ農商務大臣ハ賣拂豫約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ  
林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額、一時貸ニ在リテハ其ノ全額金十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ借受人ト共ニ契約貸借書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第二十五條 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルト

第一類 國有林野法施行規則